

# IV 道路詳細設計検討会での 検討事項

# 一 目 次

1. 平面計画、縦断計画
2. 横断計画
3. 交差計画
4. 立体横断施設
5. 植栽
6. その他の事項

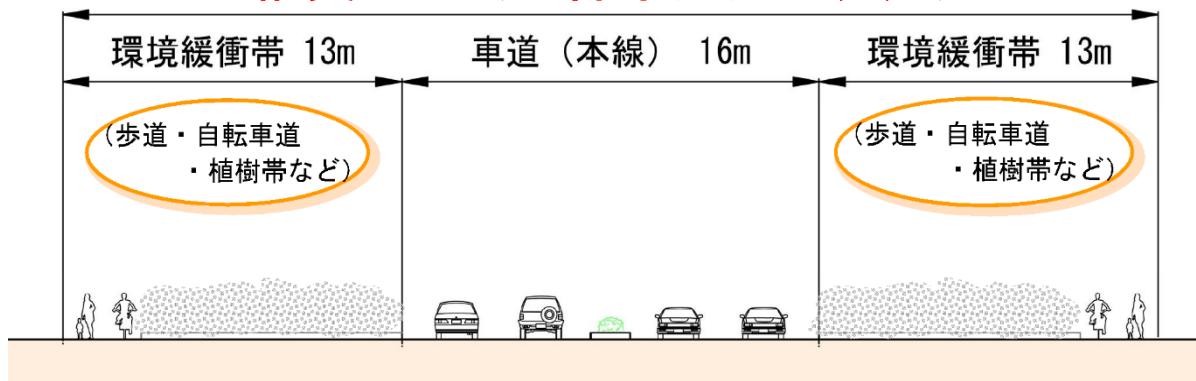
# 1. 平面計画・縦断計画

# ◆平面計画(延長、幅員、位置)は、都市計画で決定済み

延長2.57km(※都市計画で決定)

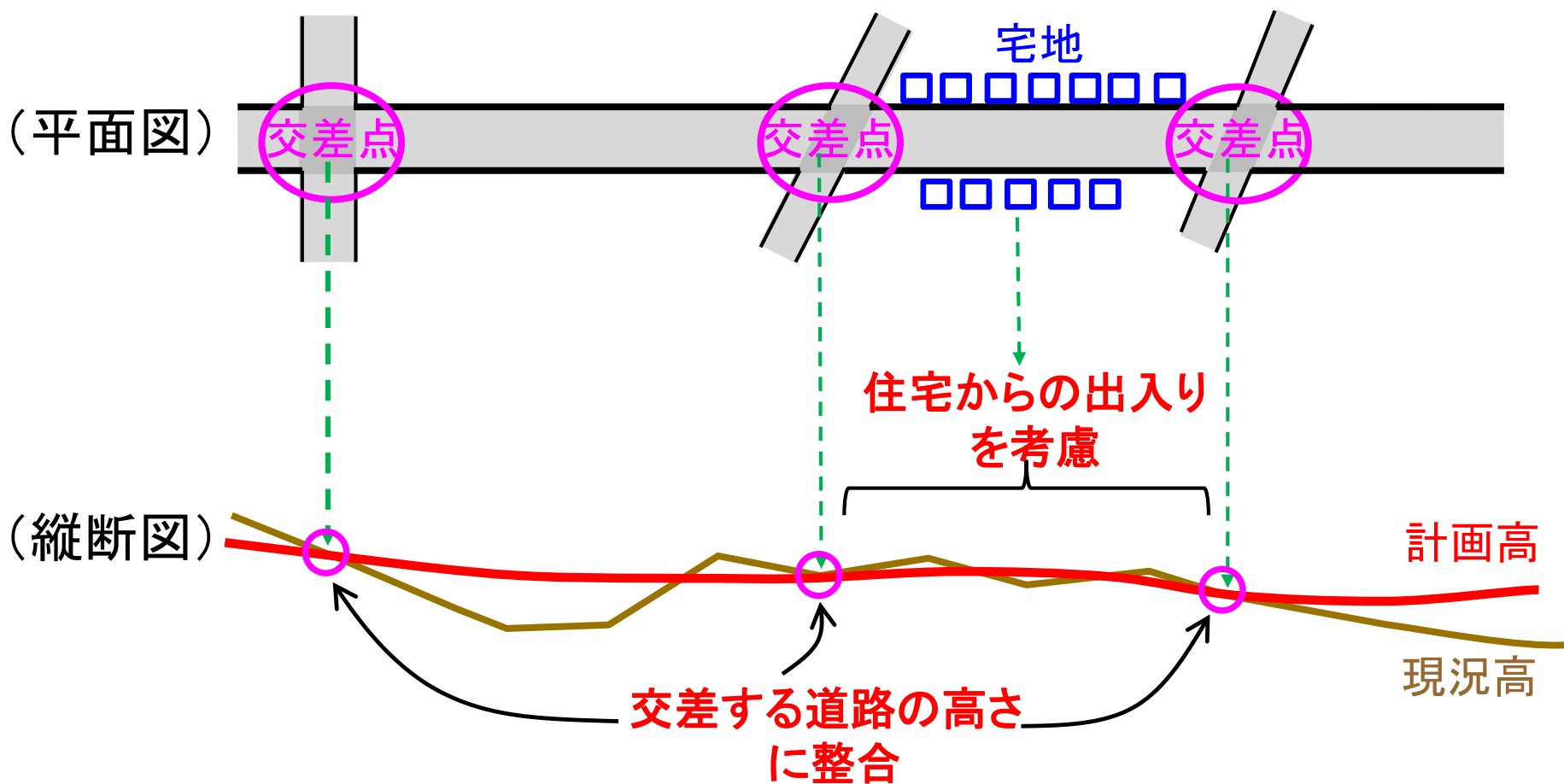


幅員42m(※都市計画で決定)



## ◆縦断計画の留意点

縦断計画は、「交差道路の高さ」や「沿道の土地利用」と整合を図って計画する必要があります。

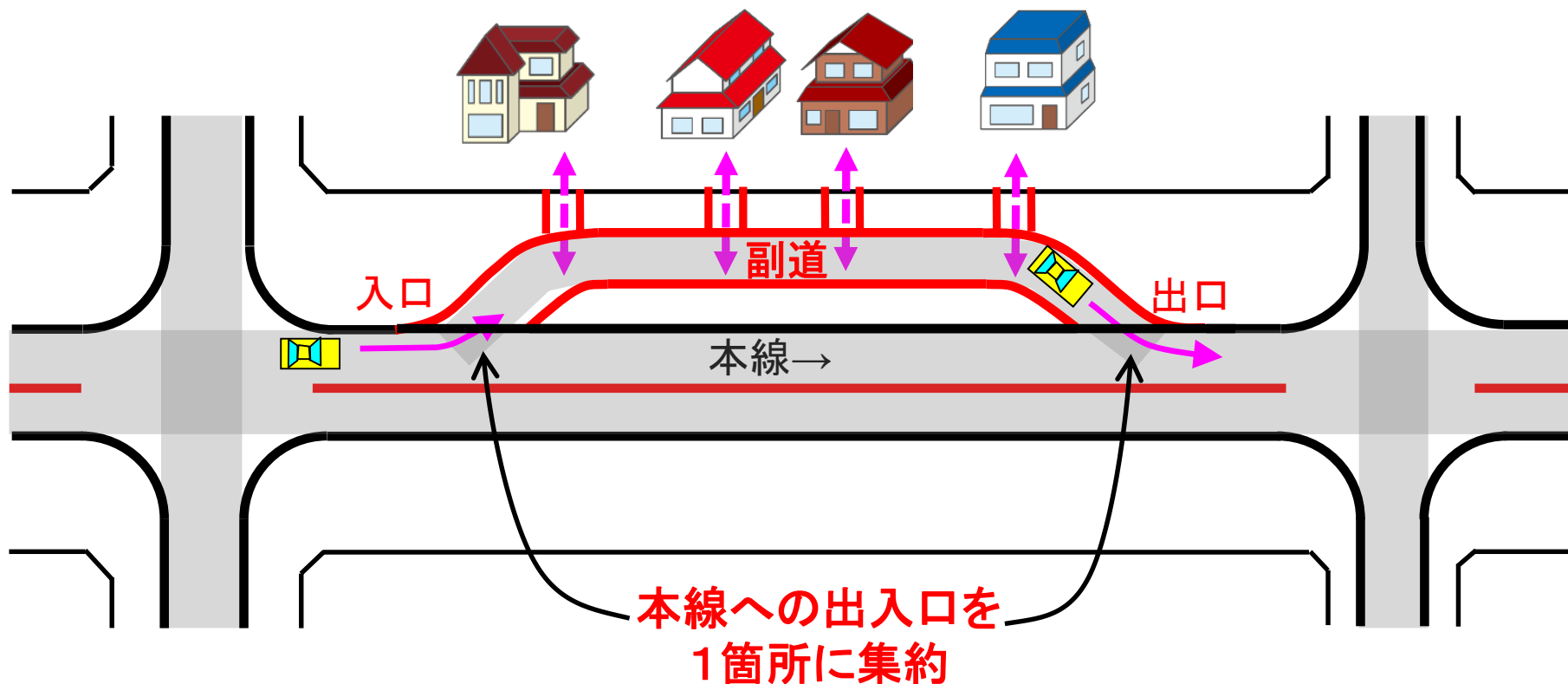


## 2. 横断計画

## ◆整備タイプ決定の留意点<副道タイプ>

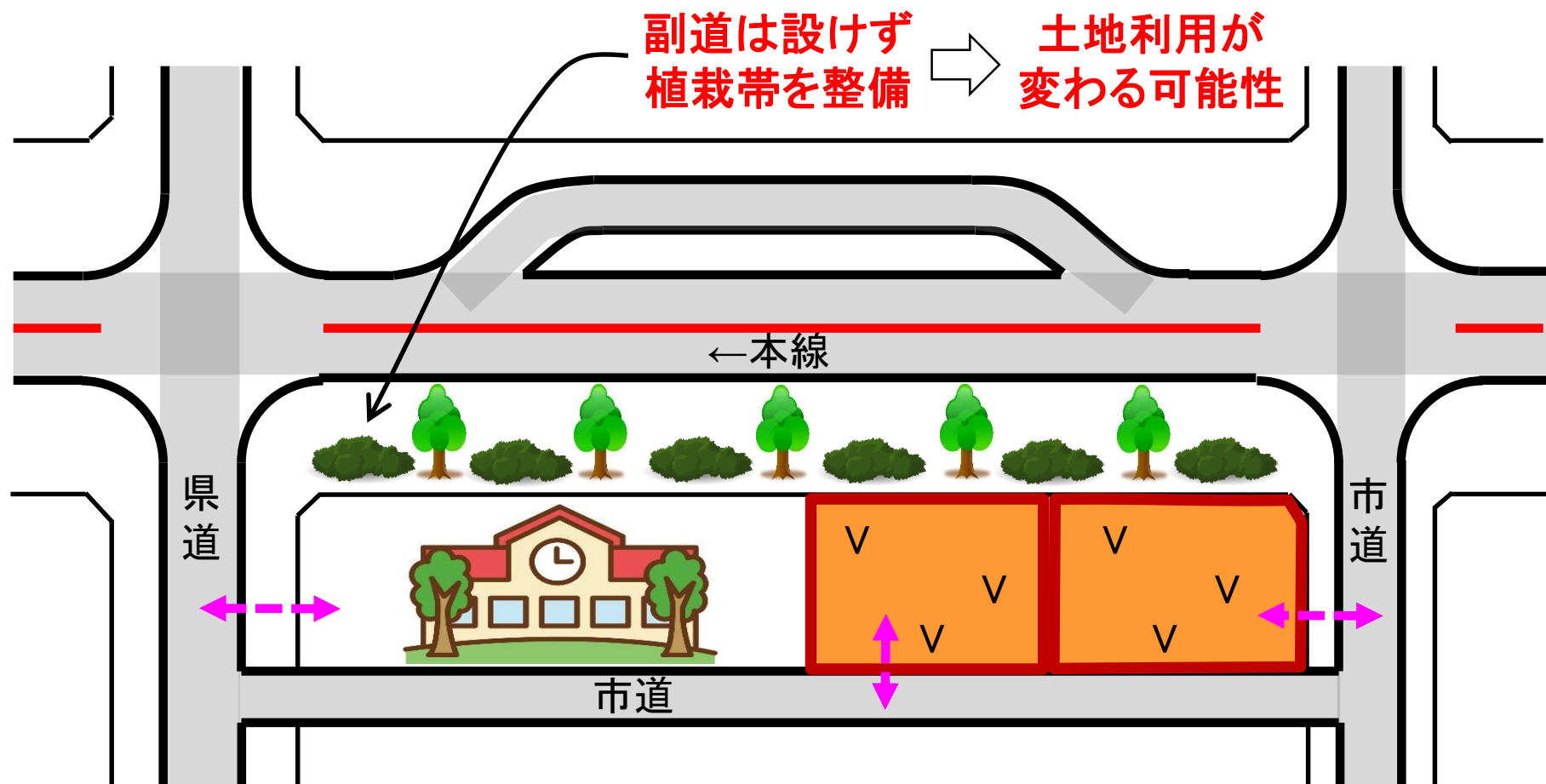
沿道施設が多い箇所は、副道を設置して安全性や円滑性を確保し、各施設から副道に出入りするよう計画します。

### 住宅が並ぶ区域



## ◆整備タイプ決定の留意点<緑地タイプ>

沿道施設への出入りが限定的な箇所は、緑地とする方向性ですが、将来的な沿道土地利用の変化(商業施設や住宅への転換)を十分考慮する必要があります。



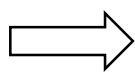


# 3. 交差計画

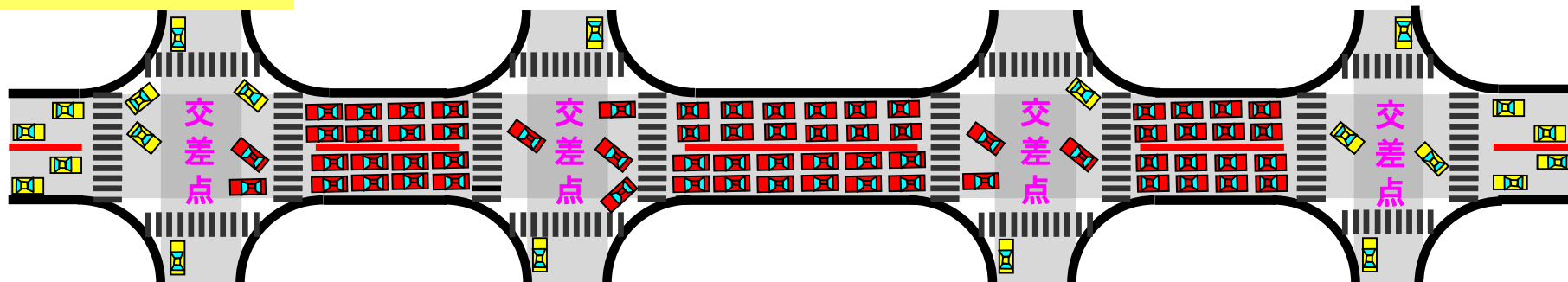
## ◆交差計画上の留意点①

交差点は、「沿道利用」の観点では、多く配置されるのが望ましいものの、「通行の安全性」や「交通の円滑化」の観点では、できるだけ集約(最小化)することが望まれます。

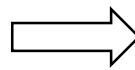
交差点数  
多い



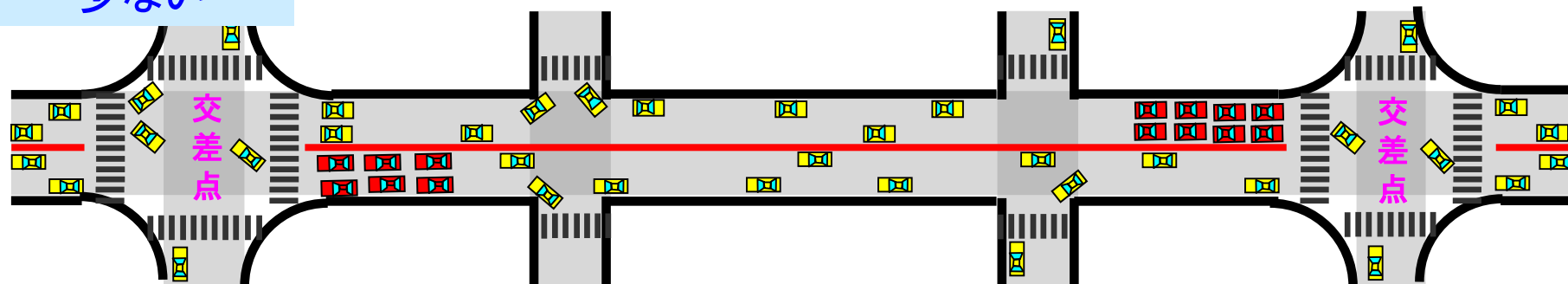
交差点間隔が短いため、渋滞が発生しやすい。  
交差点は事故が発生しやすいため、事故の危険性が高まる。



交差点数  
少ない

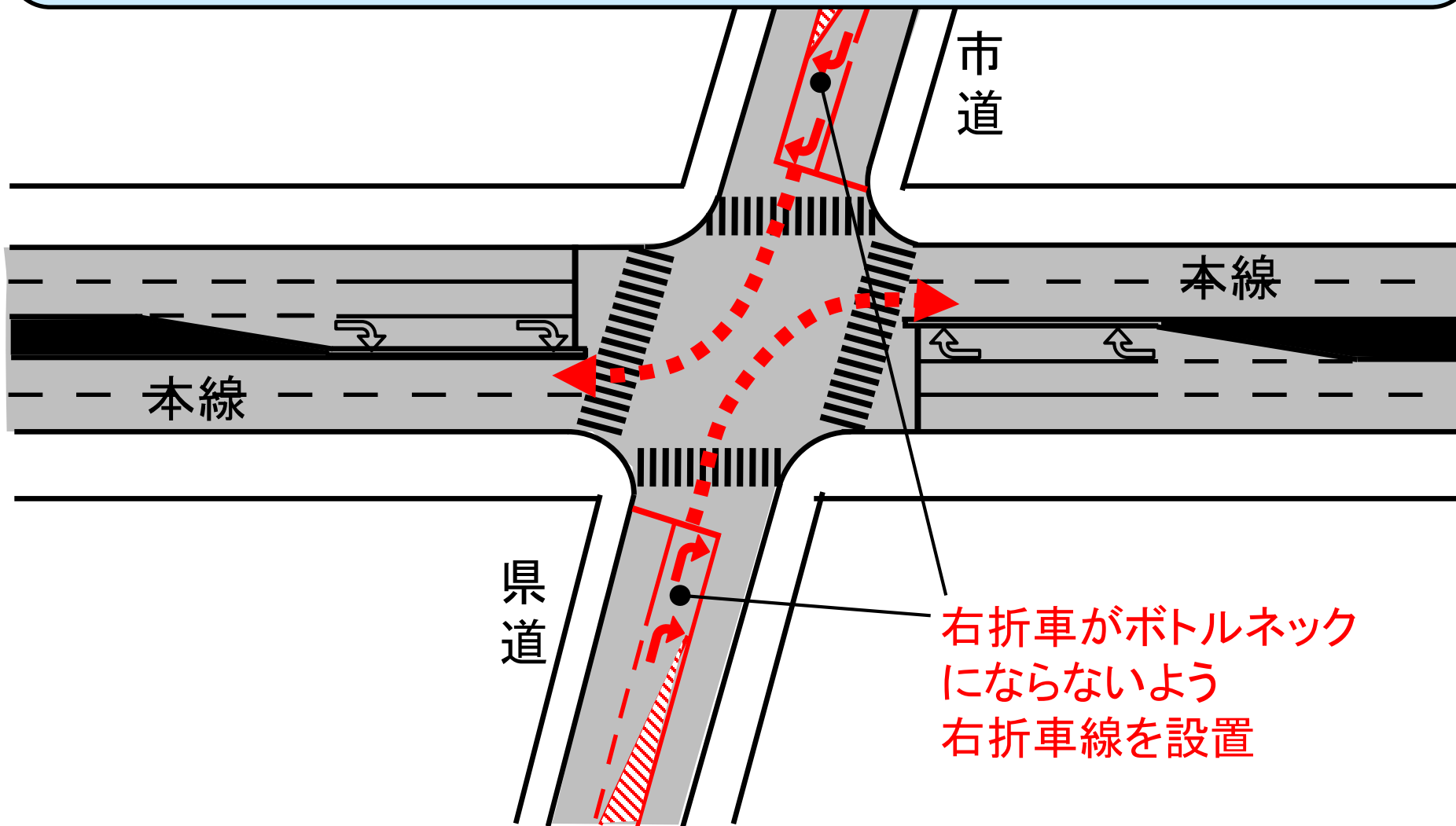


交差点間隔が長く、横断する箇所が限られるため、不便になる。



## ◆交差計画上の留意点②

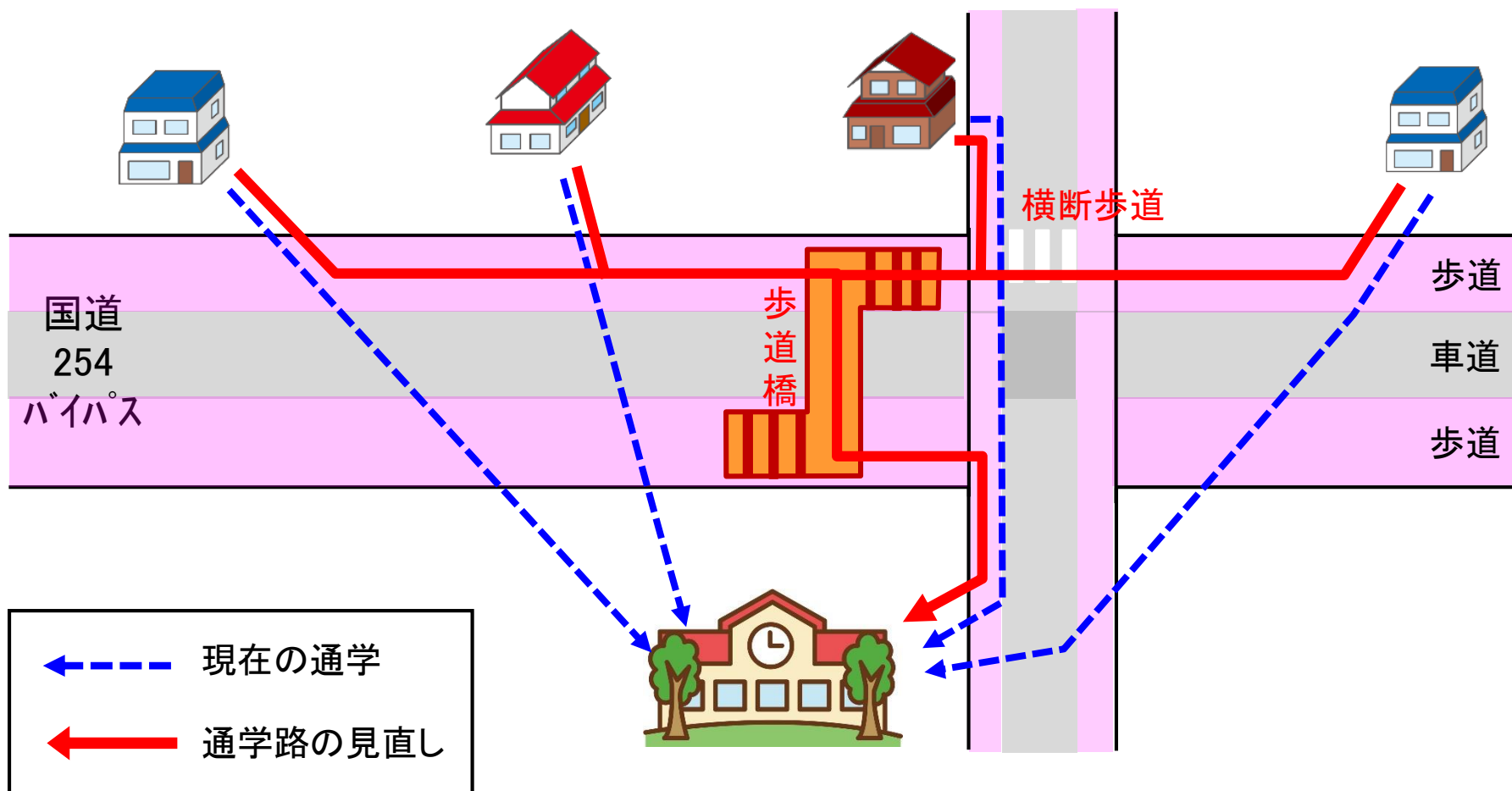
本線の新設に伴い、交差道路(既存の県道や市道)側の渋滞対策を併せて計画する必要があります。



## 4. 立体横断施設

## ◆立体横断施設の配置計画上の留意点

立体横断施設の設置は、通学路や歩行者数等を総合的に勘案して検討します。併せて、通学路は、バイパスの歩道を活用した見直しが望まれます。



## 5. 植 栽

## ◆植栽計画上の留意点①

- ・樹種の選定は、市のシンボルや維持管理面を考慮しながら検討します。
- ・樹木の配置は、交通安全や防犯等を踏まえ、視認性の確保や緩衝機能を考慮しながら検討します。



市の木

モクセイ



市の花

ツツジ

▲志木市の木・花



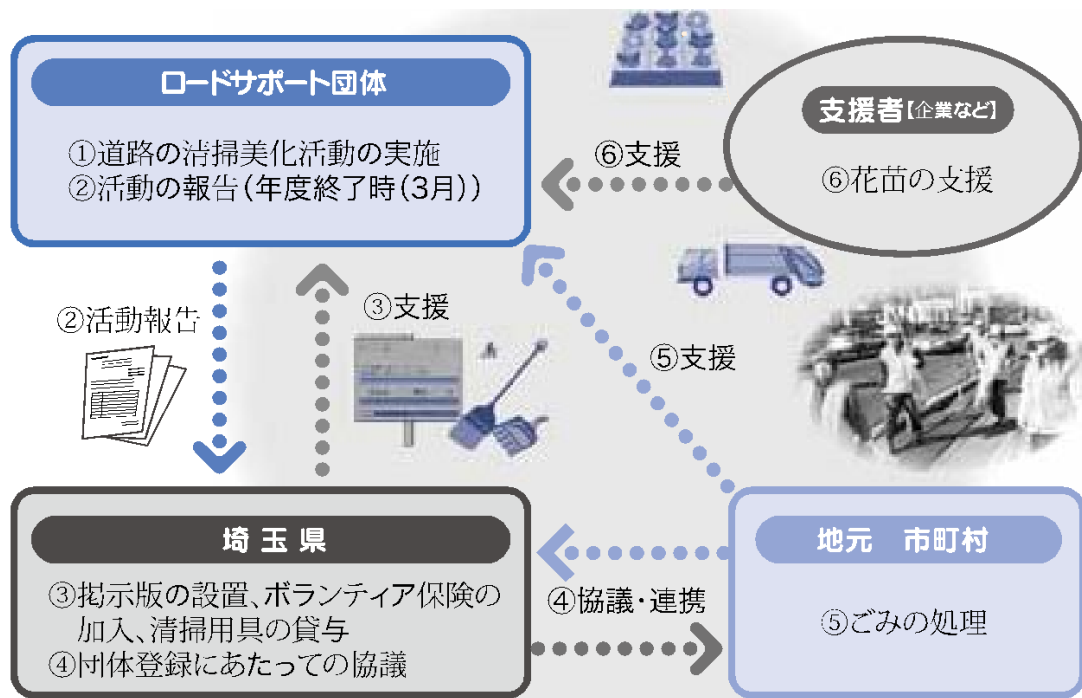
▲ハナミズキ

(維持管理しやすい植栽例)

## ◆植栽計画上の留意点②

### ＜彩の国ロードサポート制度＞

県管理道路において、清掃美化活動を行う住民等によるボランティア制度で、快適な道路環境づくりと道路愛護意識の向上を図る仕組みです。



### 四区婦人会

- 市町村 / 志木市・活動形態 / 清掃美化活動
- 場所 / 県道さいたま東村山線・保谷志木線
- 会員数 / 26名
- 認定年度 / 平成17年6月 (活動10年目)



### ▲彩の国ロードサポート制度の仕組み

### ▲活動団体の事例



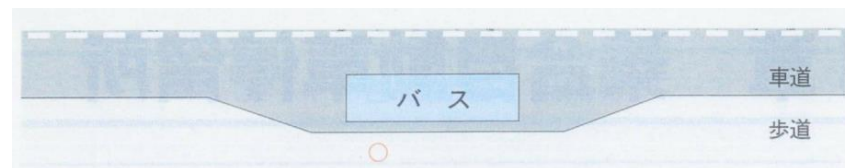
## 6. その他の事項

# ◆バス路線化への備え

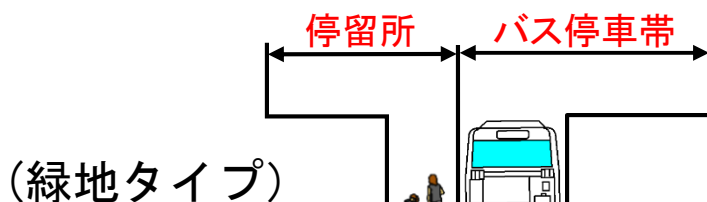
将来的な路線バス等の運行に備え、バス停車帯や停留所に改良しやすい構造とすることが考えられます。



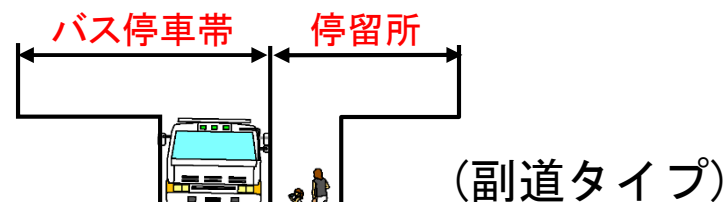
▲植栽帯の幅員を活用したバスベイ型の停留所の設置例(横浜市)



▲バスベイ型の例



(緑地タイプ)



(副道タイプ)

※植樹帯のみの改良

※植樹帯・副道等の改良